

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は107円台を中心とする推移か

[7月6日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月29日～7月3日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	107.17	108.16(1)	107.04(29)	107.53	+0.31
ユーロ・ドル	1.1223	1.1303(2)	1.1185(1)	1.1237	+0.0018
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	22,306.48	-205.60	日本10年債利回り	0.028	+0.016
ダウ平均株価	25,827.36	+811.81	米10年債利回り	0.669	+0.028

<来週の主要経済統計等>

- 6日 独5月製造業受注指数
ユーロ圏5月小売売上高指数
米6月ISM非製造業景況指数
- 7日 日本5月勤労者世帯家計調査
豪中銀(RBA)政策金利
日本5月景気動向指数速報値
独5月鉱工業生産指数
カナダ6月Ivey購買部協会指数
- 8日 日本5月経常収支、日本5月貿易収支
スイス6月雇用統計
米MBA住宅ローン申請件数
- 9日 日本5月機械受注高
中国6月消費者物価指数、中国6月生産者物価指数
独5月貿易収支、独5月経常収支
米新規失業保険申請件数
- 10日 米6月生産者物価指数
カナダ6月雇用統計

【前回のレビュー】景気回復への期待感と感染拡大第2波への警戒感のせめぎあいが続くとみられ、ドル円はドル買いと円買いの動きが交錯する中、106～107円台を中心とした推移が続くとした。ユーロドルは方向感が出にくく、もみ合いが続くとした。

【景気は回復傾向も、新型コロナウイルスの感染拡大続く】

世界的な新型コロナウイルスの感染拡大は収束するどころか増加傾向が続いている。世界の感染者数は1070万人を超えてきており、死者は51万人超に達している。感染者数の多さは米国が271万人超、ブラジルが144万人超、ロシア、インドと続いている。国内でも経済活動が徐々に再開されたことで新規感染者数は増加傾向にある。国内では感染者数の増加により、非常事態宣言が再度出されるのではないかと懸念もあり、株価の重石となっている。

一方で、米国の経済指標は改善傾向にある。6月29日発表の5月の米中古住宅販売成約指数は前月比44.3%増となり、前回の21.8%減からプラス転換して、事前予想の19.3%増を大きく上回った。6月30日のシカゴ購買部協会景気指数は36.6となり、予想の45.0は下回ったものの、前月の32.3から改善した。

中国の経済指標では、6月30日発表の6月の中国購買担当者景気指数(PMI)は

製造業、非製造業ともに予想から上振れしている。さらに7月1日発表の6月の財新製造業PMI、7月3日発表の財新サービス業PMIも予想を上回り、景気回復への期待感が高まっている。

1日発表の6月の米ADP雇用統計では、前月比236.9万人増と事前予想の290.0万人増を下回ったものの、前回分が276.0万人減から306.5万人増に上方修正された。同日発表された6月の米ISM製造業景況指数は52.6と好不況の境目とされる50を上回り、事前予想の49.7や前回の43.1を上回った。

2日発表の6月の米雇用統計では、6月の米雇用統計で非農業部門雇用者数が480万人増となり、事前予想の290万人増を大きく上回った。失業率は11.1%となり、事前予想の12.5%や前回の13.3%を下回った。こうした米中の経済指標の改善は、各国の株価の下支え要因となっている。

1日（日本時間2日の午前3時）に6月6～10日の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨が発表された。注目のイールドカーブコントロール（YCC）については、その効果を疑問視する意見が出るなど、さらに分析が必要との見解で一致していたことが明らかとなった。YCCに関してFRBは現段階では消極的と見られており、その見方を踏襲する内容となった。当面はゼロ金利政策が続くとの見通しに影響を与える内容ではなかったことで、市場への影響は限定的だった。

これまでのように市場では景気回復への期待感と感染の再拡大への警戒感のせめぎ合いが続くとみられる。新型コロナウイルスの感染者数の世界的な増加傾向は続いており、米国の一部の都市では再度のロックダウン（都市封鎖）などの実施が警戒されている。ワクチン開発への期待感も高まっているが、実用化されるまでにはまだかなりの時間を要するとみられる。

ドル円は6月29日の107円近辺から7月1日には108円超まで上昇を見せた。その後は上昇の反動で軟化している。今後は米経済指標や米国株の動向、新型コロナウイルス関連の報道に左右されつつも、一方向の動きに傾きにくい展開が見込まれる。そうした中、107円台を中心とする推移が続くこととなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、106.00～108.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、6日に米6月ISM非製造業景況指数、7日に日本5月勤労者世帯家計調査、日本5月景気動向指数速報値、8日に日本5月経常収支、日本5月貿易収支、米MBA住宅ローン申請件数、9日に日本5月機械受注高、米新規失業保険申請件数、10日に米6月生産者物価指数、カナダ6月雇用統計などがある。

【ユーロドルはレンジ相場が継続か】

7500億ユーロ規模のコロナ危機からの欧州連合（EU）復興基金が合意に向けてどう動き出すかが注目される。7月17～18日にブリュッセルで欧州特別委員会（首脳会議）が開催される。その前に9日にユーロ圏財務相会合（ユーログループ）、10日にEU財務相理事会が予定されている。首脳会議に向けて、その前段階で一定の合意を得られた場合はユーロの上昇につながりそうだが、まとまらないようならユーロは上値を抑えられそうだ。

ユーロドルは6月19日の安値1.1168と6月23日の高値1.1349の間でもみ合いに終始している。ユーロドルは1.12ドル近辺では底堅い動きを見せており、2日には1.13ドル台に乗せた。ただ、1.13ドル台では上値を抑えられている。2日の米雇用統計の後にはドル買いに傾いたものの、大きな崩れには至らずにもみ合いとなった。ユーロドルはEU復興基金の合意への動きなどに左右されるとみられるが、明確なトレンドが出にくく、レンジ相場が継続するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1100～1.1400ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、6日に独5月製造業受注指数、ユーロ圏5月小売売上高指数、7日に豪中銀（RBA）政策金利、独5月鉱工業生産指数、カナダ6月IVEY購買部協会指数、8日にスイス6月雇用統計、9日に中国6月消費者物価

指数、中国6月生産者物価指数、独5月貿易収支、独5月経常収支、10日にカナダ6月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。